

平成 27 年度 第 1 回大船渡市都市計画審議会 審議結果報告書

平成 28 年 2 月 15 日

1. 審議日時

平成 28 年 2 月 10 日（水） 13:00～14:15

2. 審議場所

大船渡市民文化交流館・カメラホール 多目的ホール B

3. 出席者

都市計画審議会委員 8 名（別紙のとおり）

事務局：志田災害復興局長

土地利用課：課長 田中聖一、技監 一柳幸弘、課長補佐 佐藤力也、係長 佐藤淳、
主任 佐々木淳

岩手県県土整備部建築住宅課：建築指導課長 谷藤正徳、主任 佐々木辰治

4. 傍聴人

0 名（報道 2 者）

5. 審議結果

(1) 議案第 1 号 建築基準法第 51 条ただし書きの規定による一般廃棄物処理施設の敷地の位置について
原案可決

(2) 議案第 2 号 大船渡都市計画マスタープランの改定について
原案可決

6. 審議経過

議案第 1 号及び議案第 2 号の審議において、委員から次のとおり質疑等があり原案どおり可決された。

(1) 議案第 1 号 建築基準法第 51 条ただし書きの規定による一般廃棄物処理施設の敷地の位置について
<吉田委員>

安全面の観点から、現状、今後の交通量及び通行車両について教えてほしい。資料を見ると場所によっては道路幅員が 4 m のところもあるが、計画変更により、歩行者や車で利用者に影響がでることは考えられるか。

<事務局（岩手県県土整備部建築住宅課）>

現状の車両の状況は、ごみ収集車が 1 日あたり 10 台程度の通行であり、一般の利用者との関連では支障がない。また、計画変更後についても、処理方法の変更のみで取扱量は増えないことから施設への搬入台数も増えないこととされており、支障はないと考える。

<出羽委員>

周辺に物が放置されるなど、景観に影響する恐れはないか。

<事務局（岩手県県土整備部建築住宅課）>

適切に保管されることとされており支障ないと考える。

(2)議案第2号 大船渡都市計画マスタープランの改定について

<伊藤委員>

将来人口フレームについて、総合計画と同じ 37,000 人としている。人口減少対策をどのように考えているか。

大船渡駅周辺地区において、まちづくり会社や旧商店街の人たちと商業機能の集約を進めているが、どのような状況か。

赤崎地区の土地利用について、山口・永浜の埋め立て地への企業誘致等が重要と考えられるが、赤崎地区の被災跡地の土地利用の検討はどのような状況か。

<事務局（災害復興局土地利用課）>

人口フレームについては、人口減少が当市だけでなく全国的な課題とされるなかで難題に取り組んでいかなければならないと考えている。

都市計画マスタープランの中では、大船渡駅周辺を中心拠点の1つと位置づけ、賑わいを創出し市全体を潤うようにしたい。また、山口・永浜地区の埋立地を含む赤崎地区を産業拠点と位置づけ、働く場の確保などに努め、人口を減らさないように取り組んでいきたいと考えている。

大船渡駅周辺地区での商業・業務施設の集積については、街区ごとに利用促進をはかることとしており、それぞれの街区で、ホテル、スーパー、ホームセンター、商業テナント、大船渡夢商店街及びまちづくり会社によるテナント型商業施設を計画している。

赤崎地区の被災跡地利用については、地元の復興推進組織等とのワークショップ形式での話し合いなどを重ねており、要望なども寄せられている。防集跡地として市有地となる土地が点在しており、集約が課題となっている。また、防集、小中学校、県道工事などが行なわれており、その残土置き場も確保する必要があるなど、今後も地元と協議していきたい。

<出羽委員>

都市計画マスタープランの基本方針は、将来都市像、復興、発展ということだが、防災の面をもっと強調したほうが良いのではないかと思うがどうか。

<事務局（災害復興局土地利用課）>

今回、都市計画マスタープランを改定においては、東日本大震災を経験したことによる命を守るという考えによる部分が多い。

また、災害危険区域の指定に伴う土地利用方針の検討や、防災まちづくりの項目を新たに設けたことが改定の最大の特徴であり理解いただきたい。

<米田委員>

交通の部分において、東北横断自動車道の接続ルートと三陸沿岸道路への中央インターチェンジの設置の検討が上げられているが、どちらも重要な項目であり、是非実現してほしい。

中央インターができること、吉浜、越喜来の人たちの利便性も向上する。

また、中央インターチェンジについて、土地利用方針を見ると、リアスホールの交差点付近に下りてくるように見えるが、今でもリアスホールのイベント時などに混雑することから、実現にあたっては考慮してほしい。

<事務局（災害復興局土地利用課）>

東北横断道への接続道路の検討及び中央インターとも具体的な計画はこれからという状況だが、機運を醸成し関係機関との調整や要望などを続けていきたいと考えている。

リアスホールの混雑についても、計画を進める中で検討したい。

<出羽委員>

東北横断道路釜石秋田線への接続ルートについてはどのような考えか。

<事務局（災害復興局土地利用課）>

今のところ決まっておらず、これから検討していくことになるが、陸前高田市、住田町とも協力して進められるようなルートを考えたい。

(3)その他

なし